

1. 本園の教育目標

- キリスト教精神に基づき、愛と祈りによる保育を行います。
- 人間交流、自然、文化体験を通して、心豊かでしなやかな子どもを育てます
- 善悪を見分け、本当に良いものを守り、行う子どもを育てます

2. 本年度の重点目標

- ①子ども理解を深めるための園内研修の充実を図る
- ②コロナ禍で保護者の幼稚園の関わりを工夫する

3. 評価項目の取組と成果

自己評価結果の総括表

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点的に取り組む目標 ①	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
子ども理解を深めるための園内研修の充実を図る	研修を通して、子ども理解について、気づきを得る	4	子ども理解を深め、カリキュラムにつながる	3.1	4	友だちの思いも受け入れられるようになった	3.4	B	研修を定期的に行った。園内研修ということで参加教諭も多く、職員同士、学んだことを共有しやすかった。研修で学んだ事を生かして、別の視点で子どもを見ることができたり、支援の方法を学んだり、学んだことを踏まえて子どもと接したり、研修を通して子ども理解を深められた。子どもたちもこの1年で自己発揮することができるようになった。
		3	子ども理解についての新たな視点をもつ		3	遊びの中で自分の思いや気持ちを出せるようになった			
		2	子ども理解がなぜ保育に必要なかを考える		2	落ち着いて過ごすことができる時間が増えた			
		1	研修の必要性を感じていても参加できない		1	喜んで登園している			
重点的に取り組む目標 ②	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果				
コロナ禍での保護者の幼稚園の関わりを工夫する	保護者や地域の方が園の活動に参加できる形を模索する	4	参加者にアンケートをとったり子どもの姿を振り返ったりして、成果や課題を明確にする	3.6	4	多様な人間交流の中で、人と関わる喜びや楽しさを味わうことができた	3.4	B	運動会は時間を短縮する、室内行事では人数を制限するなど、行事では工夫をしながらも、保護者が参加できる形態を模索してきた。子どもたちも様々な大人と関わることで、人と関わる安心感や楽しさを感じることができていたように思う。マスクの着用・感染対策において、様々な考えがある中で、今後も参加形態については、引き続き模索していきたい。
		3	幼児も参加者も安心・安全で気持ちよく参加できるよう工夫する		3	他者への好意的な関わりが見られるようになった			
		2	感染状況や感染対策を鑑みながら参加形態を検討する		2	安心して過ごせるようになり、子どもの遊び・活動がより充実した			
		1	園行事への保護者や地域の方の参加を工夫する		1	日頃関わらない人との交流に戸惑う子どももいる			

取組と成果に関する評価結果 A:とても良い B:まあまあ良い C:普通 D:良くない(要検討)

4. 本園の総合的な評価結果と今後の課題

今回の自己評価を通して、保育者一人ひとりが子ども理解の大切さを感じ、研修で新たな視点をもつことができ、保育に生かすことができた。研修を園内で行うことで、職員の参加しやすい時間に行えるため、参加できる職員も多かった。年間を通して研修を計画したことで、連続性のある研修内容を学べ、多くの保育者が保育へ生かすことができ、成果へとつながったのではないかと感じる。今回の自己評価を受け、次年度のカリキュラムへ生かしていきたい。

コロナ禍で、保護者をはじめ地域の方など園内に入ることができる機会が減り、交流の機会が少ない幼児期を過ごしていた。年長児が卒園する前に、保護者が保育の様子をみることができたり、地域の方と交流したり、できるよう、参加形態を模索してきた。交流・体験を大切にす本園の教育目標が少しずつ取り戻され、結果につながったように感じている。仕事をされている方も多いため、園に活動できる形が無理なくできるような形態・マスク着用などにおけるさまざまな考えなど、これからも課題は残るが、引き続き模索しながらよりよい形態を考えていきたい。

5. 学校関係者評価委員会の評価 委員会実施日 令和5年(2023)年4月18日

- ①子ども理解を深めるための園内研修の充実を図る異なる2名の講師を招いている、職員に配慮して園内で行っている、みんなと一緒に受けることで知識のバラツキを避けられている点が評価できる。
 - ②コロナ禍で保護者と幼稚園の関わりを工夫する2回に分けて行い、屋外での活動を積極的に行い、コロナ禍でも地域の方々と交流し、保護者および地域の方々にも好評であった点が評価できる。
- 両方とも自己評価はB評価であったが、控えめな評価であると思う。

学校関係者評価委員

- ・通年にわたっての園の研修を通じ、職員同士の相互理解を深めることになったのではと感じる。今後は、実際の現場で起こったことにフォーカスして、職員全員がケーススタディーを行うことも取り入れてみると、更に良い研修になるのではないだろうか。5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、マスク着用が個人の判断に委ねられるなど、少しずつ元の生活に戻って来つつあるが、感染対策について、保護者の考えも多様なことが想定される。暫くの間は、柔軟に対応していった方が良いと感じる。一方で、保護者や地域の方と接触の機会は増えてくるので、積極的な交流を図っていただき、いろいろなアイデアを取り入れていくことを期待する。

学校関係者評価委員

・普段の幼稚園児の園内での生活態度や勉強や遊びの様子は分かりませんが、フェンス越しに聞こえたり見えたりする園児さん達の元気に遊ぶ大きな声と桜の木に並んですわるかわいい姿、父兄が園へ送った後の入り口での挨拶や喜怒哀楽の表情が目につきます。

また、園庭で園児同士、気持ちがぶつかった時や、お片付けなど促し園児たちが行動に移さないときの先生の対応など、先生が大きな声を出すこともなく、お互いの気持ちを宥め優しく接しられているのを見かけます。園児の安全については、園に設置された防犯カメラが大きな役割を果たしますし、校区内の住人どうし不審者が居れば連絡網にて情報が共有され園とも連絡がとれる関係が出来ていると思います。

また、公民館との共同で行う屋外(ハロウィン)活動に年間2回の清掃活動があります、校区内住人へ参加の呼びかけに対し一度参加されたかたは、ほぼ次回も楽しみにされ参加されます。園から現地までのルートは信号など交通ルールを守り、先生の指示に素直に従い2列で並び年長・年中さんが年少さんのお世話をする姿は自然と身につけているよう見え、日頃から先生方が目配り気配りされているのだと思います。

ゴミ拾いの道中には園児さんに先生がゴミ拾いをする姿で自然の大切さを教える姿、また園児さんは高齢者と繋がるのが大人と接する学びの場になれば嬉しいです。また、疲れ知らずの園児とは反対に同行する高齢者は疲れてはいましたが、子ども達との交流に安らぎをもらいました。

コロナの一日も早い収束を願い、園内での昼食会など、園と校区と一緒に活動できる機会が増えることを心から願っています。今回、学校関係者評価委員会に出席させていただき、幼稚園の教育目標や年度の重点目標の説明を聞き、ここまで評価指標にて細かく評価されていることに驚きを禁じ得ませんでした。細かく園児さんを見つめ、理解されてこそ評価ができると思います。

幼稚園での外部講師を呼んでの研修を多く積まれて園児の理解を深める体制をとっておられ、特色を持った幼稚園と理解したところです。

学校関係者評価委員